

第 15 回 GMS(メコン河流域圏)閣僚会議が閉幕

【マニラ、2009 年 6 月 19 日】アジア開発銀行(ADB)の GMS(メコン河流域圏)加盟 6 カ国*の閣僚が出席してタイ・ペブリーで開催されていた第 15 回 GMS 閣僚会議は、エネルギーや人材開発などの主要分野における協力を拡大・強化するとした全体行動計画を採択し、閉幕した。閉幕後の記者会見では、今般の経済不況にもかかわらず、経済開発の幅広い分野において実質的な進展を達成しているとの[共同声明](#)が発表された。

このうちエネルギー分野では、既に始まっている電力の国際取引を拡大するほか、川上部分にあたる発電分野でも統合推進を視野に入れたロードマップ(工程表)が合意された。計画では、農村部の電化やオフグリッドの供給システムを普及するほか、国際取引を統合的に広げることによって、GMS 各国の全ての人々が近代化エネルギーにアクセスできるようにし、水力、石油、ガス、石炭といったさまざまな資源を各国が利用できるようにすることを目指す。

こうしたエネルギー分野での統合が進めば、投資コスト圧縮につながるほか、エネルギーの対外依存度も減少するため、エネルギーの安全保障面でもメリットがもたらされる。さらに供給源が多様化し、炭素排出量も削減できる。ロードマップでは、サプライサイドのアクションが必要であるとし、具体的には、エネルギー効率の向上と再生可能で地球にやさしいエネルギーの開発促進を求めている。

一方、人材開発分野では、移住労働者の安全促進、伝染性疾病の対策強化、GMS 地域全体にわたる教育と技能の向上、人身売買の撲滅などを盛り込んだ新しい計画が採択された。

ADB のグリーンウッド副総裁は「今回、電力の国際取引促進や再生可能なエネルギー開発といった計画が合意されたことで、エネルギーの効率的な利用に弾みがつけば、エネルギー安全保障の問題が大きく改善する。メコン河流域は気候変動の影響を受けやすいことから、地球温暖化ガス排出量の削減効果も期待したい」と述べている。

同副総裁は、GMSでの伝染性疾病の防止がこれまでのところ成果をあげている点や、疾病の大規模感染の脅威に対しても地域全体の対処能力が強化されている点を指摘し、現代は各国間の物理的な往来が盛んであることや、新型インフルエンザの世界的流行といった背景を考慮すれば、賞賛されるべきとしている。また同副総裁は、各国政府の中堅・幹部職員を対象とする研修や、地域の研究機関育成について、GMS 開発の重要課題として、ADB が継続して支援していくことを強調した。

GMS は今後 3 年間で、越境交通協定(CBTA)その他の国際交通・通商強化イニシアチブを実施し、現在の交通回廊を一大経済圏に発展させ、環境問題への取り組みも強化することを目指す。

* カンボジア、中国、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム(国名の ABC 順)

お問い合わせ先

駐日代表事務所
広報官: 望月 章子
T: +81 3 3504-3441/3160
E-mail: amochizuki@adb.org

ADB のニュースリリース(和文)は、下記 URL にても
ご覧いただけます。
<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>